

Genuine Plus⁺
プレミアムプラス



株式会社ヴァンガードスミス代表取締役
田中慶太氏。子どものころに起こった
ドマで出くする刑罰を夢見て北海道
に就職。現実とのギャップを埋めるべく
退職し、民間企業勤務を経てヴァンガ
ードスミス設立にいたる

「事件にしない」を実現する新たなインフラ 元警察官に相談できる安心感

日本で唯一の近隣トラブル解決支援サービス「Pサポ」は、2015年にサービスを開始して7年で会員数60万人を超える成長ぶり。それもそのはず、相談員は元警察官という絶対的な信頼感があるのだ。同サービスを提供する株式会社ヴァンガードスミスのメディアフリーティングで代表取締役 田中慶太氏の想いを聞いた。

「交番の手前」ですべて解決
近年増加する近隣トラブル。コロナ禍で自宅にいる時間が長くなったことで、より身近に感じられるようになったのではないだろうか。
元警察官という経歴をもつ株式会社ヴァンガードスミスの田中慶太社長によると、近隣トラブルの相談は「交番では日常茶飯事」しかし、事件を優先させるを得ない性質上、警察ではその手のトラブルへの手厚い対応が難しいが、その一見小さな近隣トラブルが大きな事件の火種であることも少なくないという。交番で扱える条件になるその前段階でトラブルを解決することで、事件に発展するのを防げるのでは？ そんな想

いから北海道警察を辞め、田中社長が立ち上げたのが、近隣トラブル解決支援サービス「Pサポ」である。
あくまでも「未然に防ぐ」ことに主眼を置き、警察とは一線を画す存在でありながら、相談員は全員元警察官というところが実にユニーク。警察官といえば聴取のプロであり、公平な立場で状況を見極めることを生業とした人々である。相談案件には、まずしっかりと双方の言い分を聞いたうえでトラブル解決の糸口を探る。トラブルの多くは、お互いの事情を理解することで一気に解決に向かふこと、これまで受けてきた相談はすべて取束に導いてきた。噂が噂を呼ぶ、契約数は月3万件から10万件と飛躍的に伸び続けており、「Pサポ」の必要性を実感しているという。

全国に広がれ 防犯インフラ
近隣トラブルに対応し、場合によっては警察の介入が必要かどうか、その判断基準は「Pサポ」相談員

の警察勤務時代に培った経験がものをいう。例えば、必要に応じて福祉などの行政機関に誘導し、かつ状況をまとめ警察にも取り上げてもらい注目を促すといった具合だ。ここまでじっくりとトラブル対応することができるのは、「なんとか事件になる前に食い止めることはできないか」という、田中社長の思いに賛同して「Pサポ」に集まってきた若ばかりの民間企業だからだ。
現在60万人の会員に対応しているが、200万人の会員に対応できるだけの人材をすでに確保している。事件を解決する警察が社会のインフラであるように、ゆくゆくは事件を未然に防ぐサービスも防犯のインフラにしたい。そのためにも、後手にまわらず即座に対応できる人員体制を整えている。
「事件を防ぐことができる社会の意識を高めることができるまで、この必要性をアピールしていきたい」と語る田中社長。次世代を担うビジネスパーソンである。

月額780円(消費税込858円)の定額制で、対応事案が発生しても追加料金は一切かからない。どんなことも相談できる気軽さをもた、民間ならではの

「Pサポ」トラブル解決支援の流れ



株式会社ヴァンガードスミス「Pサポ」の詳細は、<https://psupo.jp/>

富裕層、暗号資産、リベート…… 税務調査が待っている

2022
12/6
毎日新聞出版
定価700円

週刊エコノミスト

狭まる包囲網

税務調査

富裕層、暗号資産、リベート……

過度な**相続節税**を見抜く
国税のチェックシート

円安で狙われる
為替差益にご注意

暗号資産の無申告
エイダの次は**ソラナ**か

エコノミストレポート
新たな廃プラ再生手法
ケミカルリサイクルに注目

プログラマーが
申告漏れ1位のワケ

深刻な国税職員の
モラル低下

来年10月
開始**インボイス**制度
の大混乱

